

高崎町立高崎中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は国道221号線沿いの高崎町のほぼ中央部(町場)に位置し、学級数10、生徒数314名の中規模校である。縄瀬小学校、江平小学校、高崎麓小学校、高崎小学校の4校の児童が入学する高崎町の中心校である。伝統的に部活動がさかんで、過去優秀な成績を納めているが、生徒数の減少により、部活動のあり方を考える時期に来ている。進学する高等学校の数が多く、これまでは保護者生徒とも、進路やそれを支える学習面(成績面)に対する意識は高い方ではなかった。

現任校長より「文武両道」の合い言葉のもと、学力向上に取り組み始めて2年経過する。日常の取組の成果が徐々に現れ始め、諸テストの結果も向上しはじめたところである。

2 生徒の実態

生徒は概ね生活態度が良好で、諸行事や部活動等に熱心に取り組む。問題行動も少なく、教師の指導に対しても素直である。しかし、主体的にものごとに取り組む態度や意欲は今少しで、指示待ち傾向は否めない。また、「時・所・状況」に応じて適切な行動をとることや言葉を選んで遣うことが苦手な生徒や、あらたまった場や公式な場において、言動が萎縮してしまう生徒が見られる。

学力調査や定期テスト、日常的な教育評価によると、多くの教科で「知識・理解・技能」面は、概ね身に付きつつあるが、「思考力・判断力」や「表現力」の点で陥没していると分析している。

つまり、記憶した内容をそのまま書いたり言ったりすることは概ね達成しているが、それらの知識を総合して課題を解決したり相手意識をもって表現したりする能力や、解決すべきことを最後まで解決しようとする意欲や態度などの育成が急務であると考えている。

中学校学力調査における意識調査の結果によると、社会的実践力や豊かな体験、心の豊かさなどの領域が低いという結果が出ている。これは、諸体験不足により考えたり判断したりしたことを、自分の属する社会の中で行動に移すことを躊躇する傾向の表れであると考えている。したがって、学校の全教育活動において、道徳の時間や学級活動を充実させ、そこで培った道徳的心情や態度、実践力等を主体的に発揮する場の設定に努めなければならないと考える。また、心の教育を推進する上でも、読書に取り組ませることに努めたいと考える。

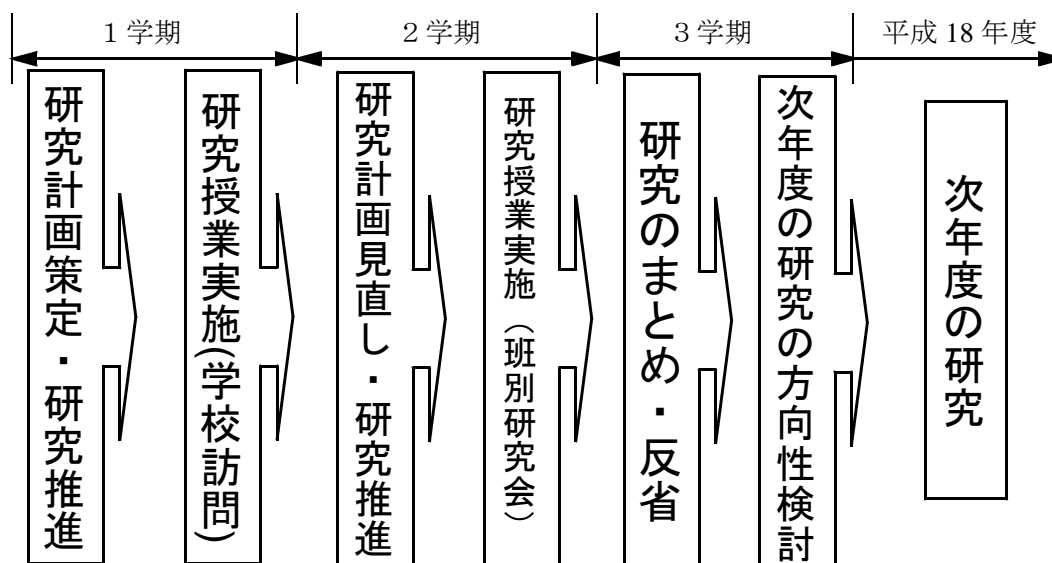
3 学力向上に向けた経営方針

「文武両道」の合い言葉のもと、「豊かな心と確かな学力を持ち健康でたくましい生徒の育成」を学校の教育目標に掲げている。これを受け、8つの努力目標の1番目に、「教科指導の充実と学力向上」を設定し、適切な教育課程の編成と実施、基礎的・基本的な内容の確実な定着、学習指導法の改善と個に応じた指導の徹底、小・中連携による基礎学力の確実な定着の4つの柱で学力向上に努めたいと考えている。

また、主題研究を学習指導におき、研究主題「基礎的・基本的な内容を身に付け、自ら考え、表現できる生徒の育成」、副題「各教科における学習指導の工夫を通して」を掲げ、学力向上の最も中心になる授業改善の研究に取り組んでいる。

4 教育課程内の取組

(1) 研究の流れの概要



(2) 教科における取組

主題研究において研究主題に迫るため、それぞれの教科の特性に応じたアプローチができるようにするために次のような研究班を組織した。

少人数指導研究班（数学科・英語科）
 考える力育成研究班（国語科・社会科・理科）
 表現力育成研究班（保健体育科・音楽科・美術科・技術科・家庭科）

それぞれの研究班の学力向上に対するアプローチは次のようなものである。

少人数指導研究班→加配による少人数指導の利点を生かした学力向上
 考える力育成研究班→読解力，資料活用能力の育成を通じた学力向上
 表現力育成研究班→体育，音楽，作品制作等を通じた表現力育成

以下，学力調査と関連の深い国語科・社会科・数学科・理科・英語科の，特に基礎的・基本的な学力の定着に関する具体的な取組について述べる。

	課 題	課題解決のための対策	達 成 状 況 評 価 項 目
国 語	聞く力・話す力の向上	音読の推進	すらすらと音読ができる生徒の割合が 80 % 以上
社 会	基礎的・基本的な内容の定着	授業ごとに確認テストを実施	すべての生徒の正答率が 80 % 以上

数 学	基礎的・基本的な内容の定着	セクション・単元末の確認テストを実施	単元末テストで平均 70 点以上
		少人数指導	意欲的に取り組む生徒が 90 % 以上
理 科	科学的思考力の育成	授業ごとに確認テストを実施	すべての生徒の正答率が 80 % 以上
		ワークシートの工夫	すべての生徒が問題解決的な学習の手法を理解
英 語	基礎的・基本的な内容の定着と表現力の育成	家庭学習の徹底	家庭学習（英宅）の提出率 100 %
		単語テスト，基本文型プリントを実施	単語テスト，基本文型プリントの正答率 80 %
		基本文型を用いた短作文指導	自己表現文が全員作成できる

5 教育課程外の実施

(1) 読書の推進

- ① 朝自習等を利用した読書の推進
- ② 図書の選定・購入・整備（図書主任，町派遣司書，事務担当との連携）
- ③ 生徒に読ませたい図書の紹介
- ④ 第 1 学年で朝自習の時間，町のボランティアによる読み聞かせの実施

(2) 帰りの会，放課後を利用した小テストの実施

第 1 学年…放課後を中心に，課題等の補充学習を行っている。

第 2 学年…定期的に英単語テストを行い，放課後も使って補充学習をしている。

第 3 学年…国語科・社会科・数学科・理科・英語科の，基礎的・基本的な内容に関する小テストを実施している。

(3) 主題研修の推進

主題研究での到達目標は，「授業が分かると答える生徒の割合が 80 % 以上となる」と設定した。そのために，1 学期に行われた学校訪問時に指導を受けた以下の内容を見直し，2 学期以降授業実践を行っている。

① 言葉の規定と整理

「表現力」，「自ら考え判断したこと」，「自分なりの手段」，「的確に働きかける」などの言葉の規定を行い，全教師が統一した考えで実践

② 研究で目指す生徒の姿の具体化

「知識に基づいた自分の考えをもち，それを表現できる生徒」

③ 本年度の研究の到達点の明確化

2 年計画の研究で，本年度は各教科で目標にしたがって実践を行い，各教科の実践資料を研究紀要としてまとめる。

2 年目は 1 年目の実績を受けて，目的や目標を絞り込んで，研究を焦点化していく。

④ 各教科の具体的対策の策定と共通理解

各教科で「基礎・基本の確実な定着」の視点で、到達目標を設定して、実施可能で継続可能な具体的対策を策定した。全教科集約し共通理解を図った。

6 保護者・家庭、地域との連携

家庭学習における到達目標は、「全生徒が1日1ページ以上、平均90分以上の学習を行う」と設定した。以下、そのための連携の具体的取組を述べる。

- (1) 各種通信（学級・学年・学校通信等）を通じた学力向上の取組の説明と協力依頼
- (2) 参観日（参観週間を含む）を利用した、授業公開と学年・学級懇談を利用した学力向上の取組の説明と協力依頼
- (3) PTA総会を利用した、全保護者への学校の取組の説明と協力依頼
- (4) 学校評議員会を利用した学校の取組の説明

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

以上、学力調査結果と本校の主題研究の関連で研究計画や実践内容を述べてきた。音楽科、美術科、保健 体育科、技術・家庭科については触れなかったが、すべての教科において「当たり前のことを、効果が出るまで継続して地道に取り組む」ことを念頭に置いて実践をしているところである。年度の途中であるが、ここまでで明らかになった成果と課題を述べる。

(1) 成果

- ① 全職員が方向性を同じにして、教科の特性を生かした取組ができるようになった。
- ② 生徒の「学校は学習の場である」という意識が高まりつつある。
- ③ 確認テスト等の取組により、生徒が短い間隔で自分の達成度を確認できるようになった。
- ④ 教師が細やかな点検や評価を行うことで、家庭学習の習慣化が図られつつある。

(2) 課題

- ① 年度途中でありそれぞれの取組の達成状況の検証がまだ行われていない。今後研究授業を中心に検証したうえ、来年度の研究につなげていきたい。
- ② 全教科を通して、問題解決的な学習の流れを意識した、指導過程のパターン化を行っていきたい。
- ③ 全学年朝自習や放課後・帰りの会等、授業時間以外の時間を利用した、効果的な学力向上の具体的取組を考えていきたい。
- ④ 授業公開を地域まで広げ、保護者や地域の声を学力向上に生かす具体的方策を検討したい。
- ⑤ 成績連絡票を改訂・活用し、学力向上に関して家庭との双方向の連絡・連携が取れるようにしたい。
- ⑥ 小・中連携による9年間を見通した、基礎的・基本的な内容の整理と確認を行っていきたい。